

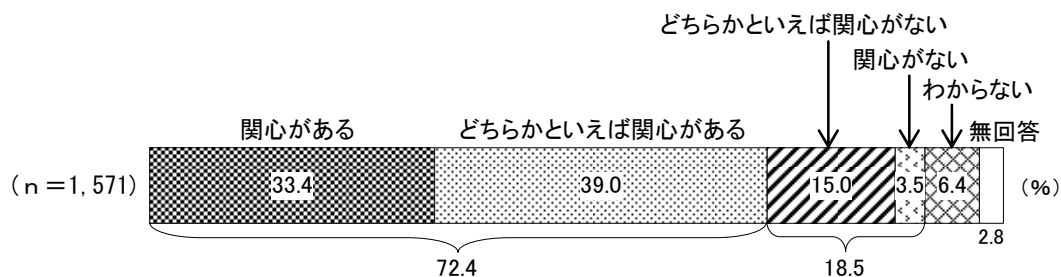
9 【食育について】

(1) 食育への関心度

◇『関心がある』が7割を超える

問32 あなたは「食育」に関心がありますか。(○は1つ)

<図表 32-1>食育への関心度



食育への関心度を聞いたところ、「関心がある」(33.4%)と「どちらかといえば関心がある」(39.0%)を合わせた『関心がある』(72.4%)が7割を超えている。一方、「どちらかといえば関心がない」(15.0%)と「関心がない」(3.5%)を合わせた『関心がない』(18.5%)は約2割となっている。

(図表 32-1)

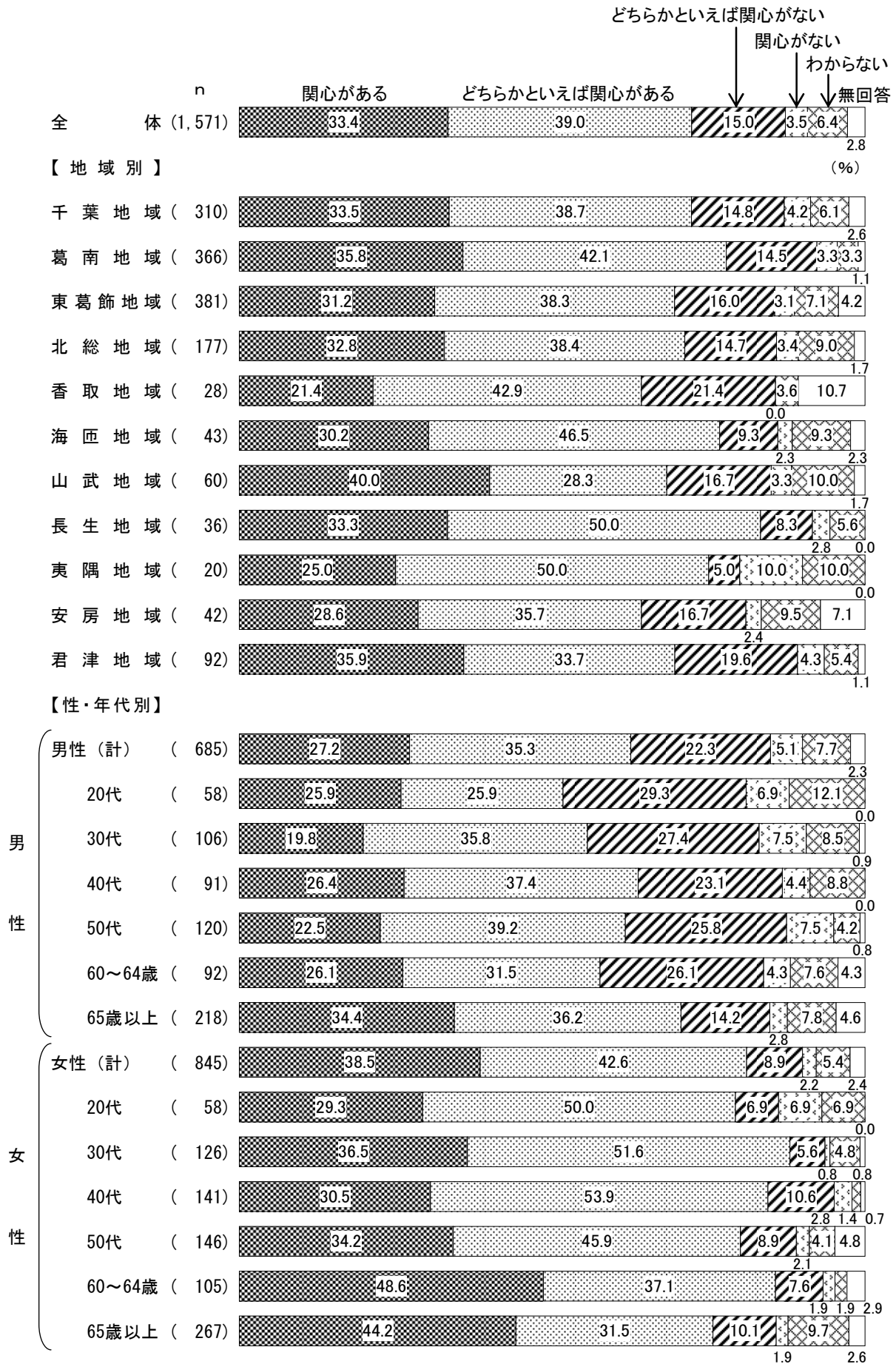
【地域別】

地域別にみると、『関心がある』は“長生地域”(83.3%)が8割台半ばで他の地域に比べて高くなっている。一方、『関心がない』は“君津地域”(23.9%)で2割台半ばとなっている。(図表 32-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある』はすべての年代で男性より女性の割合が高く、女性30代(88.1%)で約9割、40歳から64歳までの年代で8割を超えている。(図表 32-2)

<図表 32-2> 食育への関心度/地域別、性・年代別

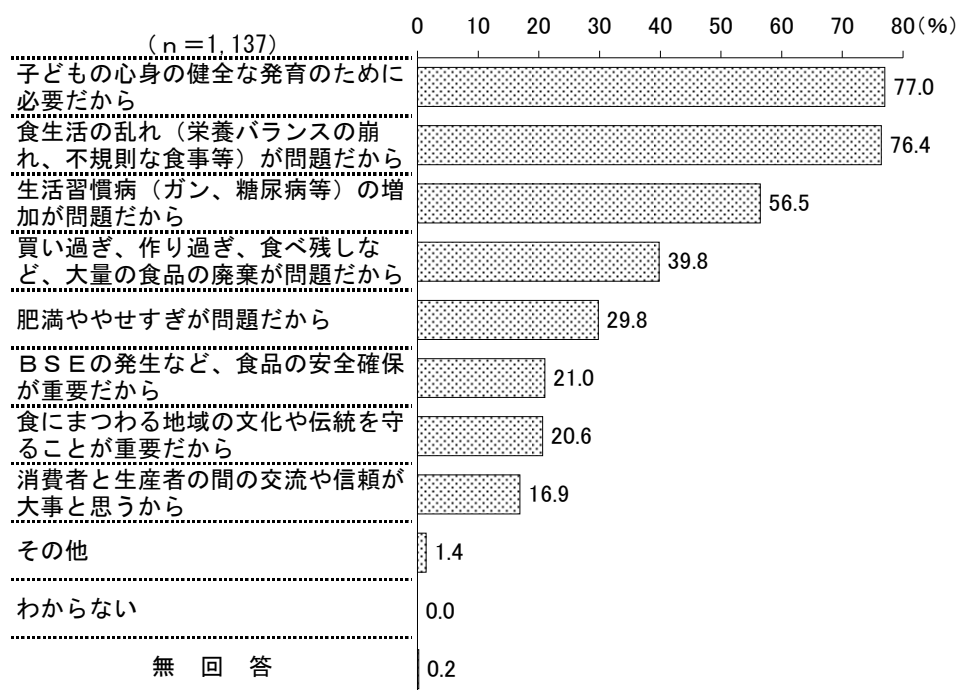


(1-1) 食育に関心がある理由

◇「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が約8割

(問32で「1 関心がある」「2 どちらかといえば関心がある」とお答えの方に
問32-1 あなたが「食育」に関心があると思う理由について、お聞かせください。
(〇はいくつでも)

<図表 32-1-1> 食育に関心がある理由



問32で「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人(1,137人)に食育に関心がある理由を聞いたところ、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(77.0%)が約8割となっており、以下、「食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ、不規則な食事等)が問題だから」(76.4%)、「生活習慣病(ガン、糖尿病等)の増加が問題だから」(56.5%)などが続く。(図表32-1-1)

【地域別】

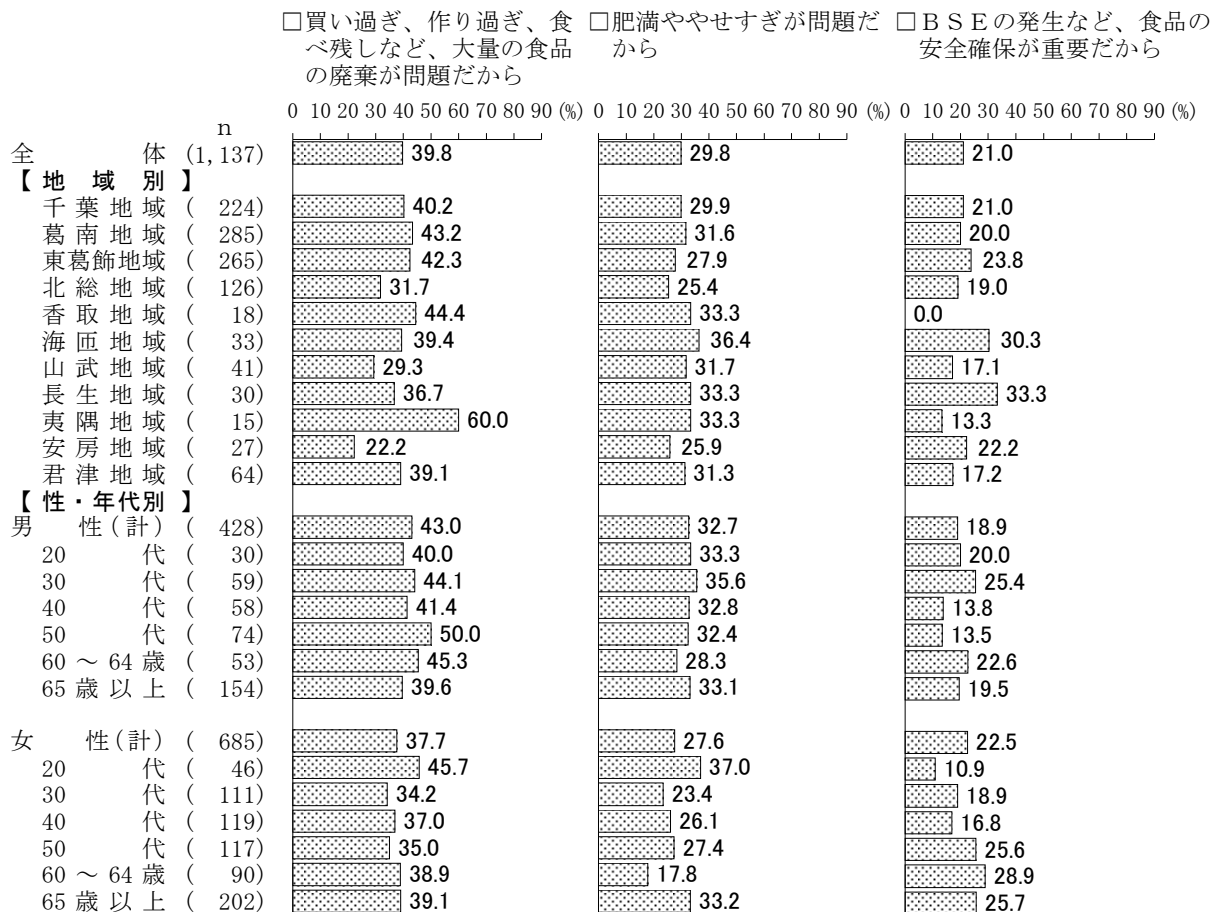
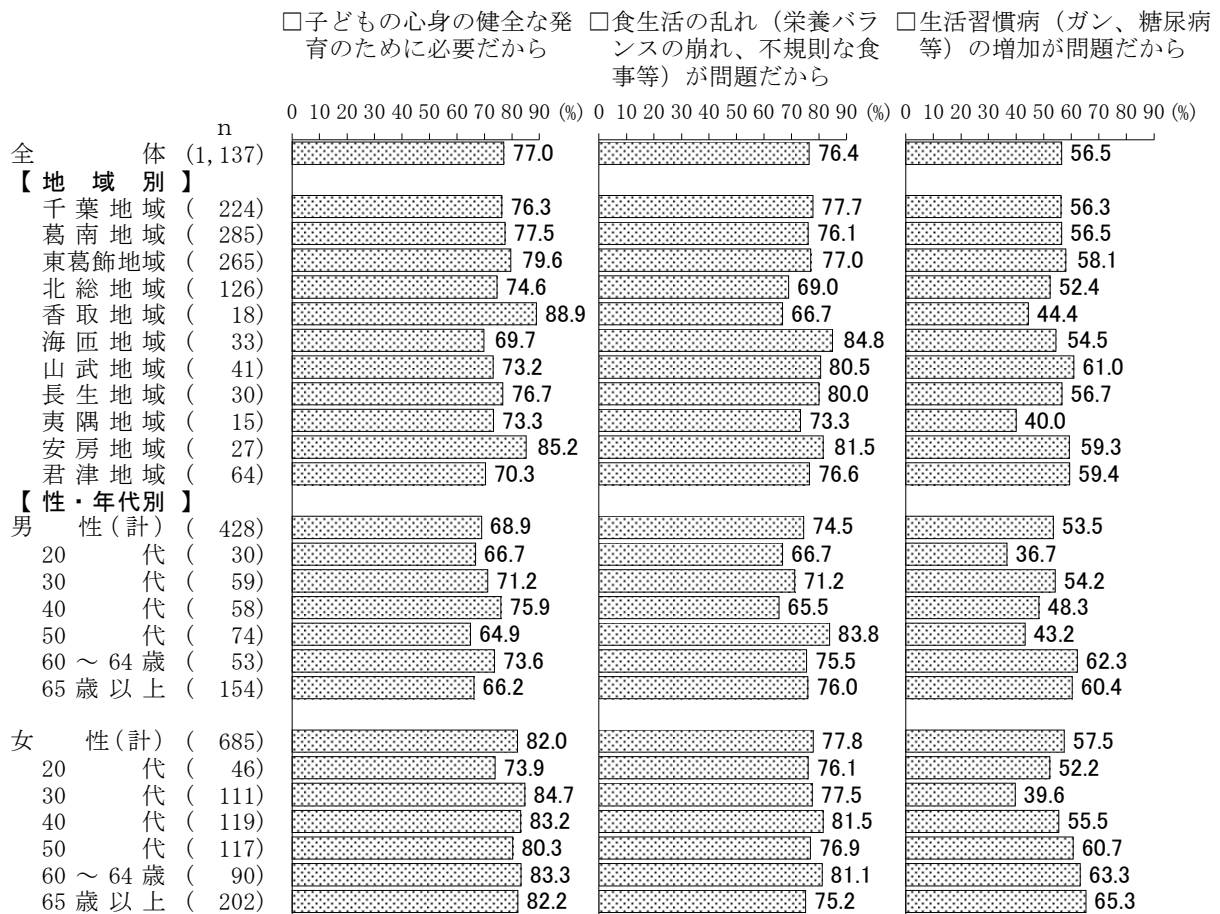
地域別にみると、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は“海匠地域”(69.7%)を除くすべての地域で7割以上となっている。「食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ、不規則な食事等)が問題だから」は“海匠地域”(84.8%)が8割台半ばで他の地域に比べて高くなっている。

(図表32-1-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」はすべての年代において女性の割合が男性を上回り、女性30代以上のすべての年代で8割以上となっている。「生活習慣病(ガン、糖尿病等)の増加が問題だから」は男性60代以上、女性50代以上の年代で6割以上となっている。(図表32-1-2)

<図表 32-1-2> 食育に関心がある理由／地域別、性・年代別

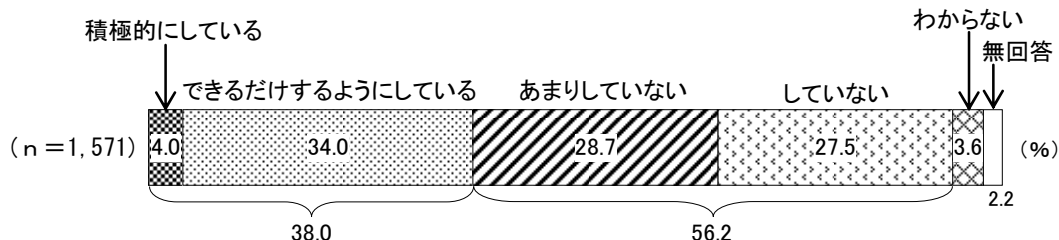


(2) 食育に関する活動・行動

◇『している』が約4割

問33 あなたは、食育に関する活動や行動をしていますか。(○は1つ)

<図表 33-1> 食育に関する活動・行動



食育に関する活動・行動を聞いたところ、「積極的にしている」(4.0%)と「できるだけするようにしている」(34.0%)を合わせた『している』(38.0%)が約4割となっている。一方、「あまりしていない」(28.7%)と「していない」(27.5%)を合わせた『していない』(56.2%)は5割台半ばとなっている。(図表 33-1)

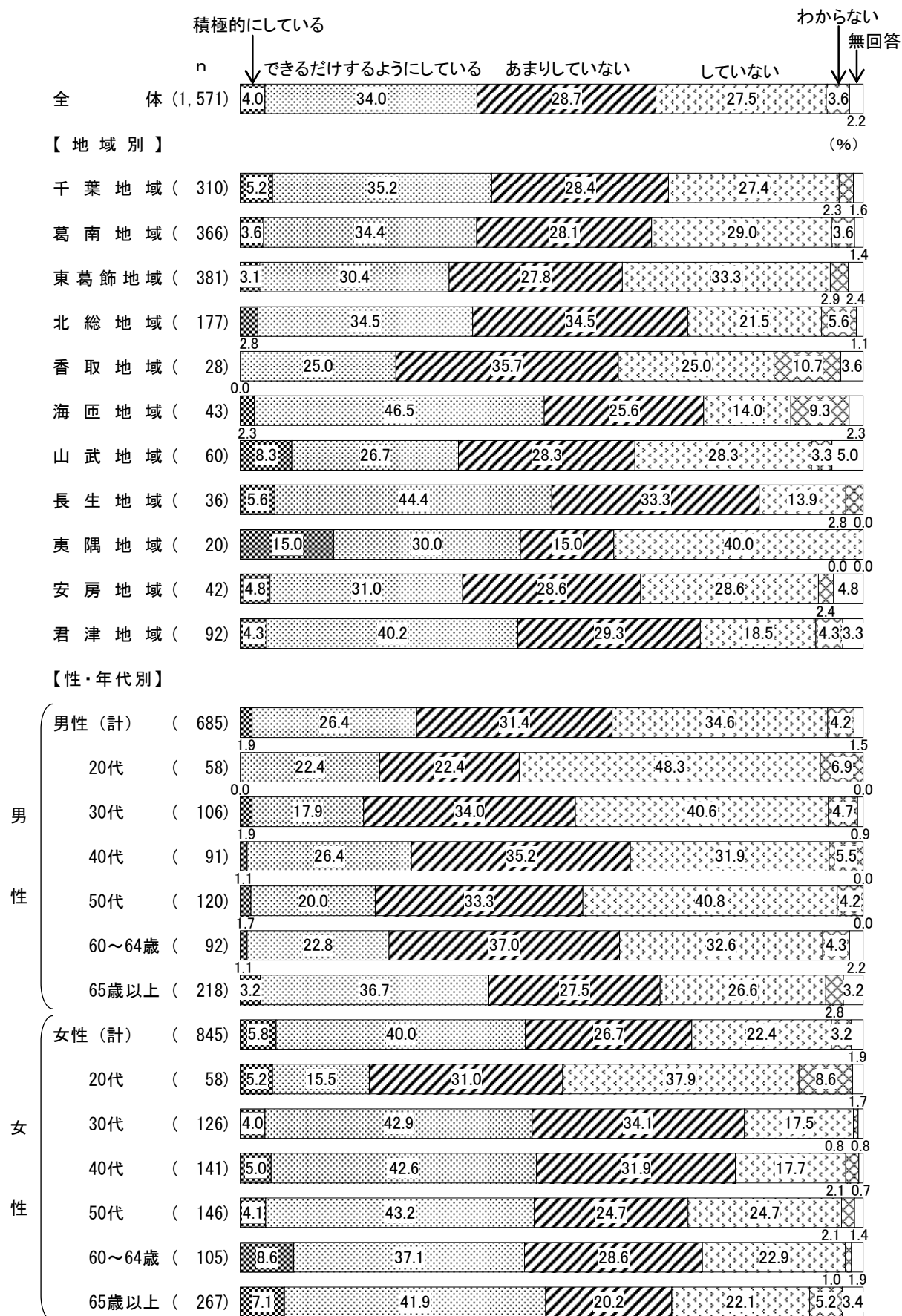
【地域別】

地域別にみると、『している』は“長生地域”(50.0%)が5割、“海匠地域”(48.8%)が5割近くで『していない』割合を上回っている。(図表 33-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『している』は女性の30代以上のすべての年代で4割台となっている。一方、『していない』は男性30代(74.6%)、50代(74.1%)で7割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。(図表 33-2)

＜図表 33-2＞食育に関する活動・行動／地域別、性・年代別

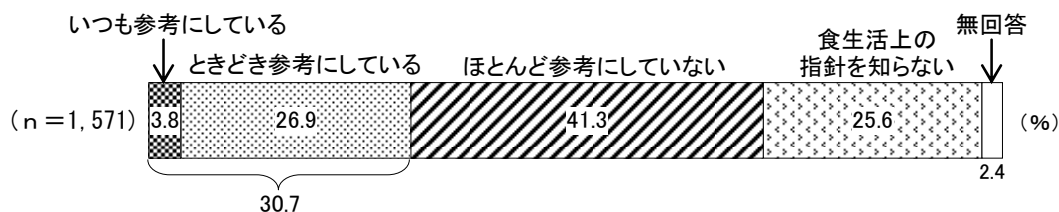


(3) 国が策定した食生活上の指針の活用状況

◇『参考になっている』が3割

問34 あなたは、食生活を送るうえで、食生活上の指針として国が策定した「食事バランスガイド」(※)、「食生活指針」(※)、「日本人の食事摂取基準」(※)等の何かを参考にしていますか。(〇は1つ)

<図表 34-1> 国が策定した食生活上の指針の活用状況



国が策定した食生活上の指針の活用状況を聞いたところ、「いつも参考になっている」(3.8%)と「ときどき参考になっている」(26.9%)を合わせた『参考になっている』(30.7%)が3割となっている。一方、「ほとんど参考にしていない」(41.3%)は4割を超え、「食生活上の指針を知らない」(25.6%)は2割台半ばとなっている。(図表 34-1)

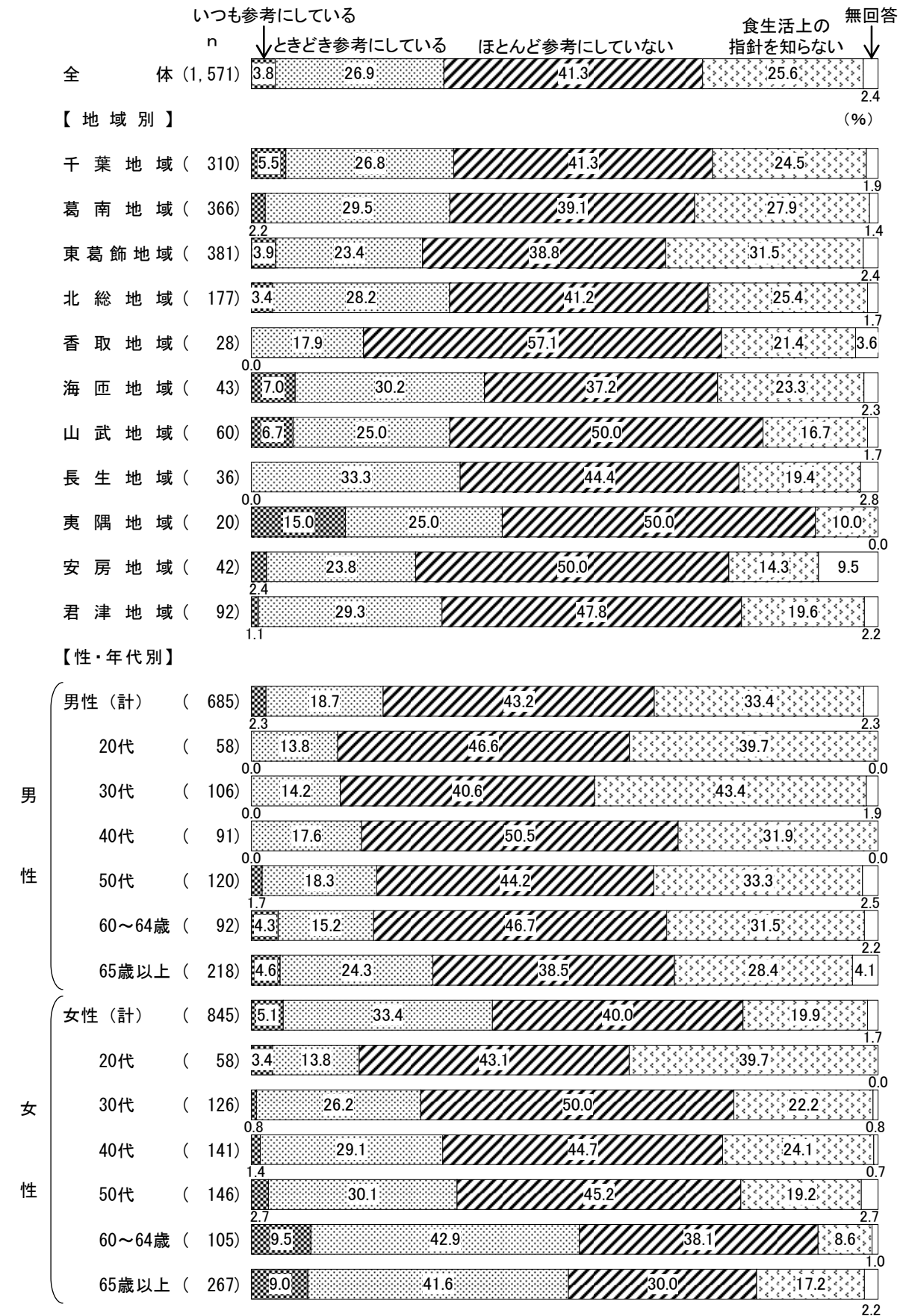
【地域別】

地域別にみると、“海匝地域”で『参考になっている』と「ほとんど参考にしていない」(ともに37.2%)が同じ割合となっているが、他のすべての地域で「ほとんど参考にしていない」が『参考になっている』の割合を上回っている。「食生活上の指針を知らない」は“東葛飾地域”(31.5%)が3割を超え他の地域に比べて高くなっている。(図表 34-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『参考になっている』は男女とも年代が上がるほど割合が高くなる傾向がみられ、女性60～64歳(52.4%)と65歳以上(50.6%)で5割以上となっている。(図表 34-2)

<図表 34-2> 国が策定した食生活上の指針の活用状況／地域別、性・年代別

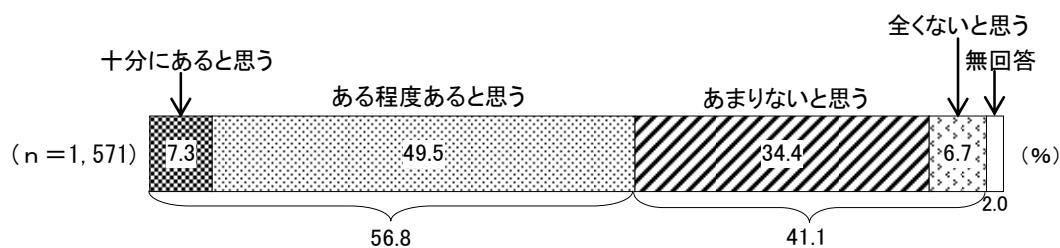


(4) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識

◇『あると思う』が5割台半ば

問35 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方が良
いかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(○は1つ)

＜図表 35-1＞健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識



健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識について聞いたところ、「十分にあると思う」(7.3%)と「ある程度あると思う」(49.5%)を合わせた『あると思う』(56.8%)が5割台半ばとなっている。一方、「あまりないと思う」(34.4%)と「全くないと思う」(6.7%)を合わせた『ないと思う』(41.1%)は4割を超えている。(図表 35-1)

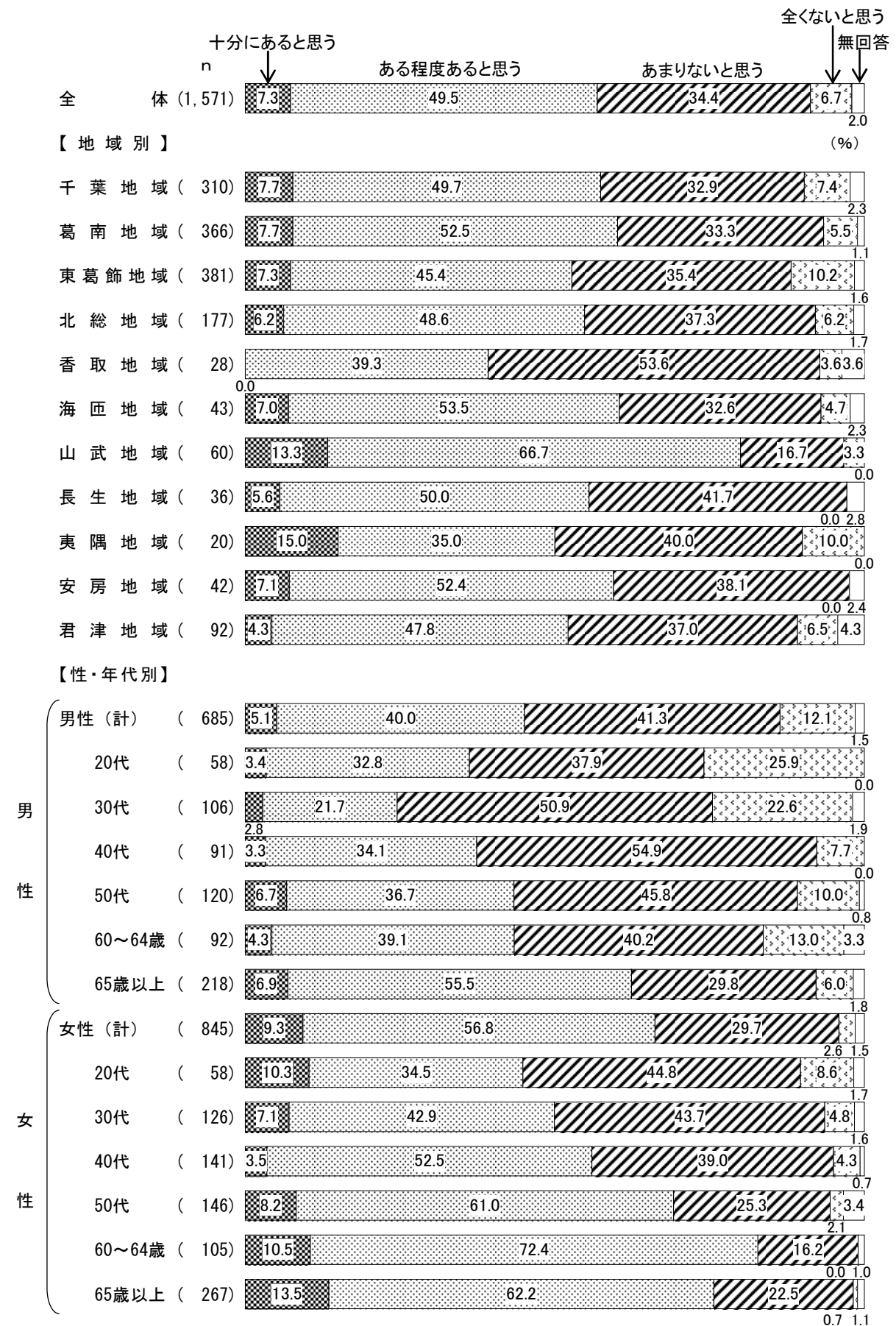
【地域別】

地域別にみると、『あると思う』は“山武地域”(80.0%)が8割で他の地域に比べて高くなっている。(図表 35-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う』はすべての年代において女性の割合が男性を上回り、女性 60～64歳(82.9%)では8割を超えている。(図表 35-2)

<図表 35-2>健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識／地域別、性・年代別

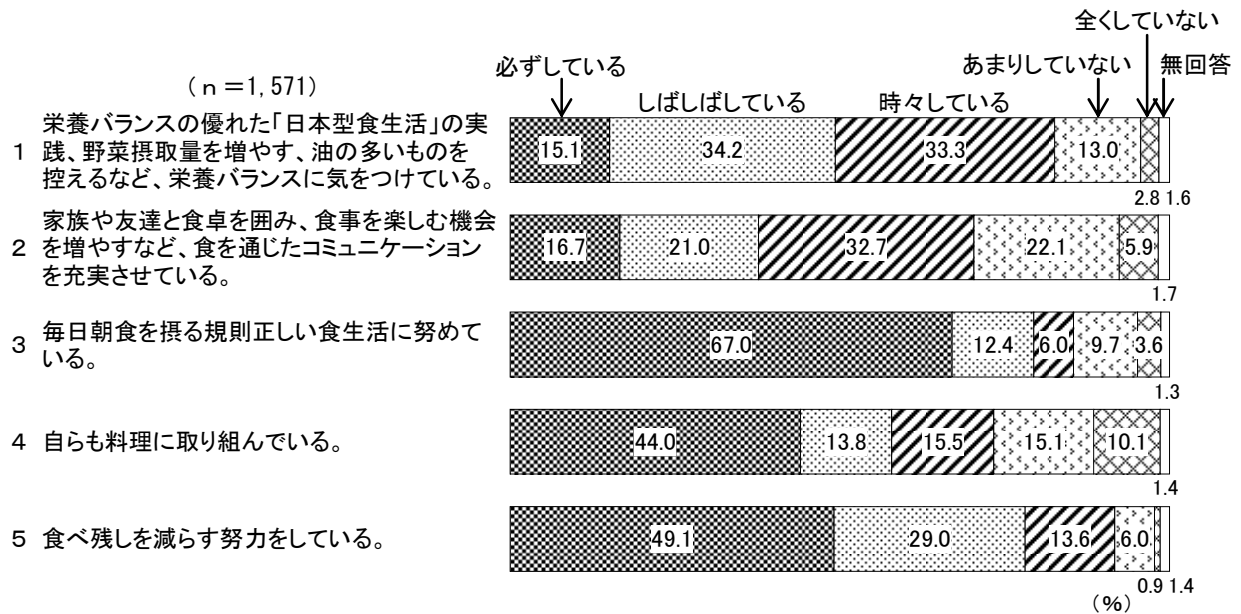


(5) ふだんの食生活

◇<毎日朝食を摂る規則正しい食生活に努めている。>で「必ずしている」が約7割

問36 家庭（単独世帯を含む）における食育として、自ら実践することが重要です。子供等への教育・指導は除き、次の1から5のそれぞれについて、あなたに、あてはまる項目を1つずつお答えください。

<図表 36-1> ふだんの食生活



ふだんの食生活を聞いたところ、「必ずしている」は<毎日朝食を摂る規則正しい食生活に努めている。> (67.0%) で約7割、<食べ残しを減らす努力をしている。> (49.1%) で約5割、<自らも料理に取り組んでいる。> (44.0%) で4割台半ばなどとなっている。(図表 36-1)

【地域別】

地域別にみると、＜栄養バランスの優れた「日本型食生活」の実践、野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養バランスに気をつけている。＞において、「必ずしている」は“夷隅地域”（20.0%）で2割となっている。＜家族や友達と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている。＞において、「必ずしている」は“海匠地域”（23.3%）“長生地域”（22.2%）で2割を超えている。＜毎日朝食を摂る規則正しい食生活に努めている。＞においては、すべての地域で「必ずしている」が5割以上となっており、“長生地域”（77.8%）では約8割となっている。＜自らも料理に取り組んでいる。＞においては「必ずしている」は“香取地域”（35.7%）と“長生地域”（38.9%）を除くすべての地域で4割を超えている。＜食べ残しを減らす努力をしている。＞においては「必ずしている」は“安房地域”（57.1%）で約6割、“葛南地域”（54.9%）で5割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。（図表 36－2）

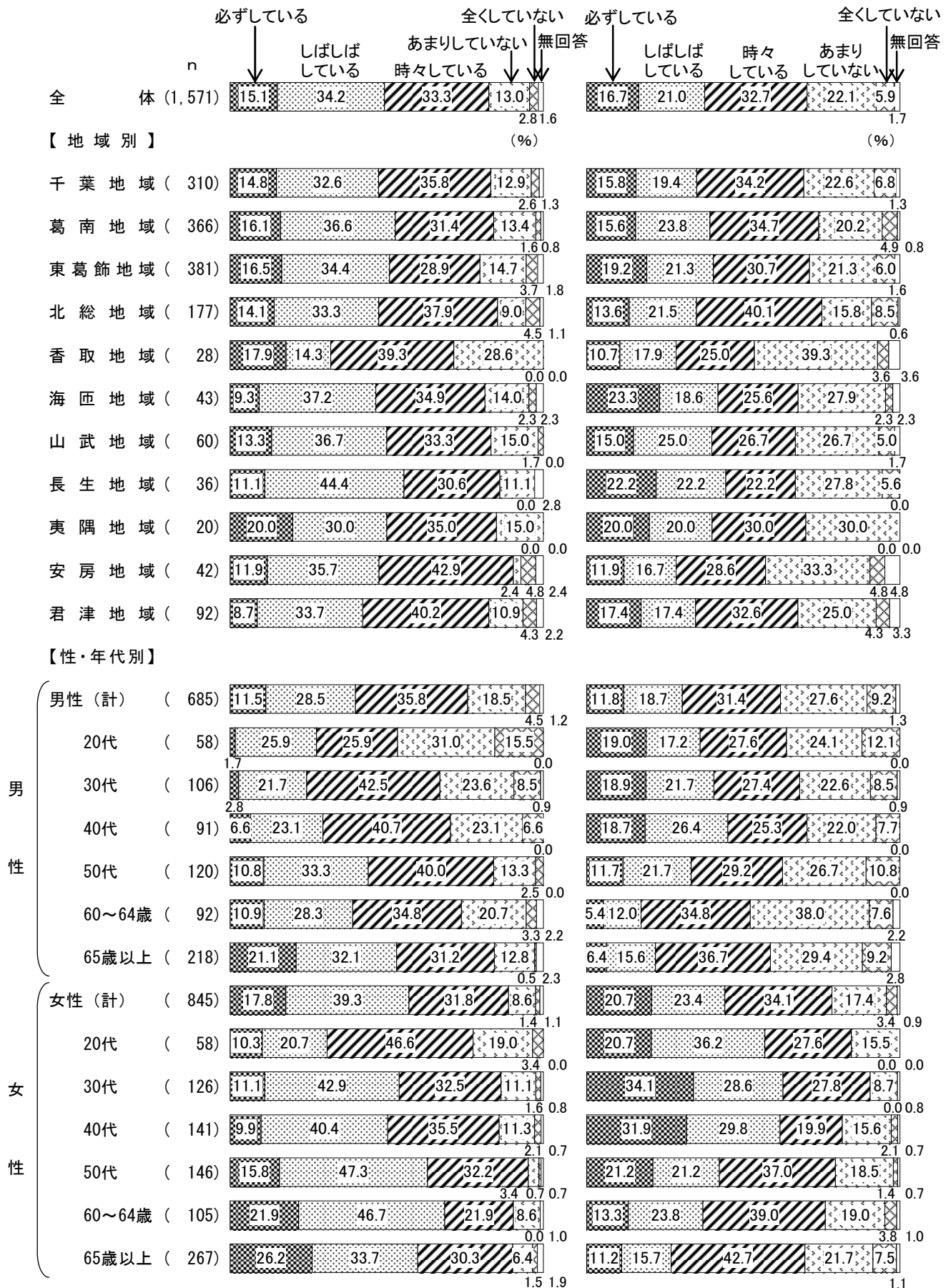
【性・年代別】

性・年代別にみると、＜栄養バランスの優れた「日本型食生活」の実践、野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養バランスに気をつけている。＞において、「必ずしている」は男女とも年代が上がるほど割合が高くなる傾向がみられ、女性 65 歳以上（26.2%）では2割台半ばとなっている。＜家族や友達と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている。＞において、「必ずしている」は女性 30 代（34.1%）と 40 代（31.9%）が3割を超え他の年代に比べて高くなっている。＜毎日朝食を摂る規則正しい食生活に努めている。＞においては「必ずしている」は男女ともに年代が上がるほど割合が高くなる傾向がみられ、女性 65 歳以上（82.0%）で8割を超えている。＜自らも料理に取り組んでいる。＞において、「必ずしている」は男性はすべての年代において1割前後と低いが、女性は30代以上のすべての年代で約6割から8割と高くなっている。＜食べ残しを減らす努力をしている。＞においては「必ずしている」は女性 65 歳以上（58.4%）で約6割となっている。（図表 36－2）

<図表 36-2>ふだんの食生活／地域別、性・年代別

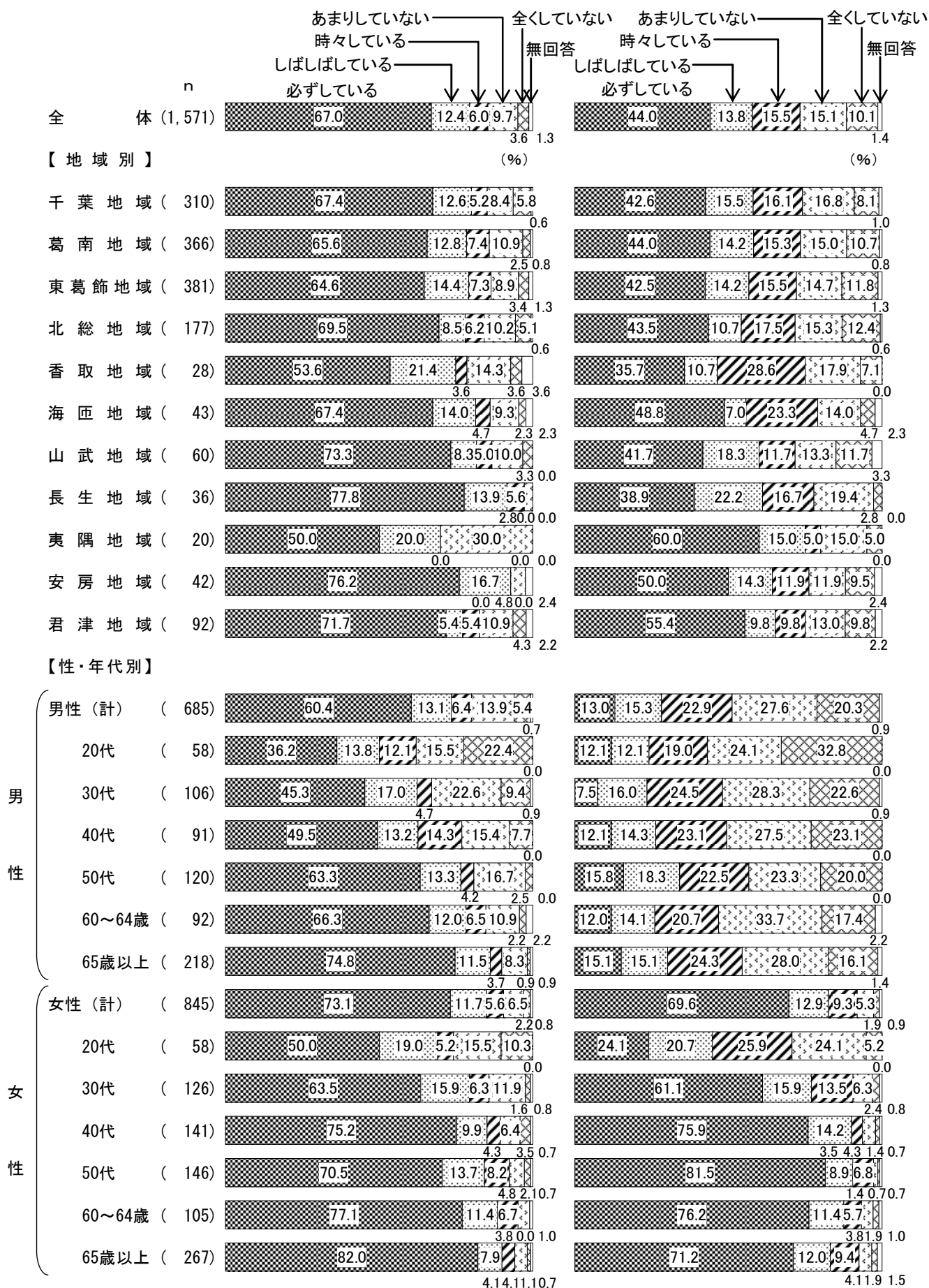
栄養バランスに気をつけている。

食を通じたコミュニケーションを充実させている。

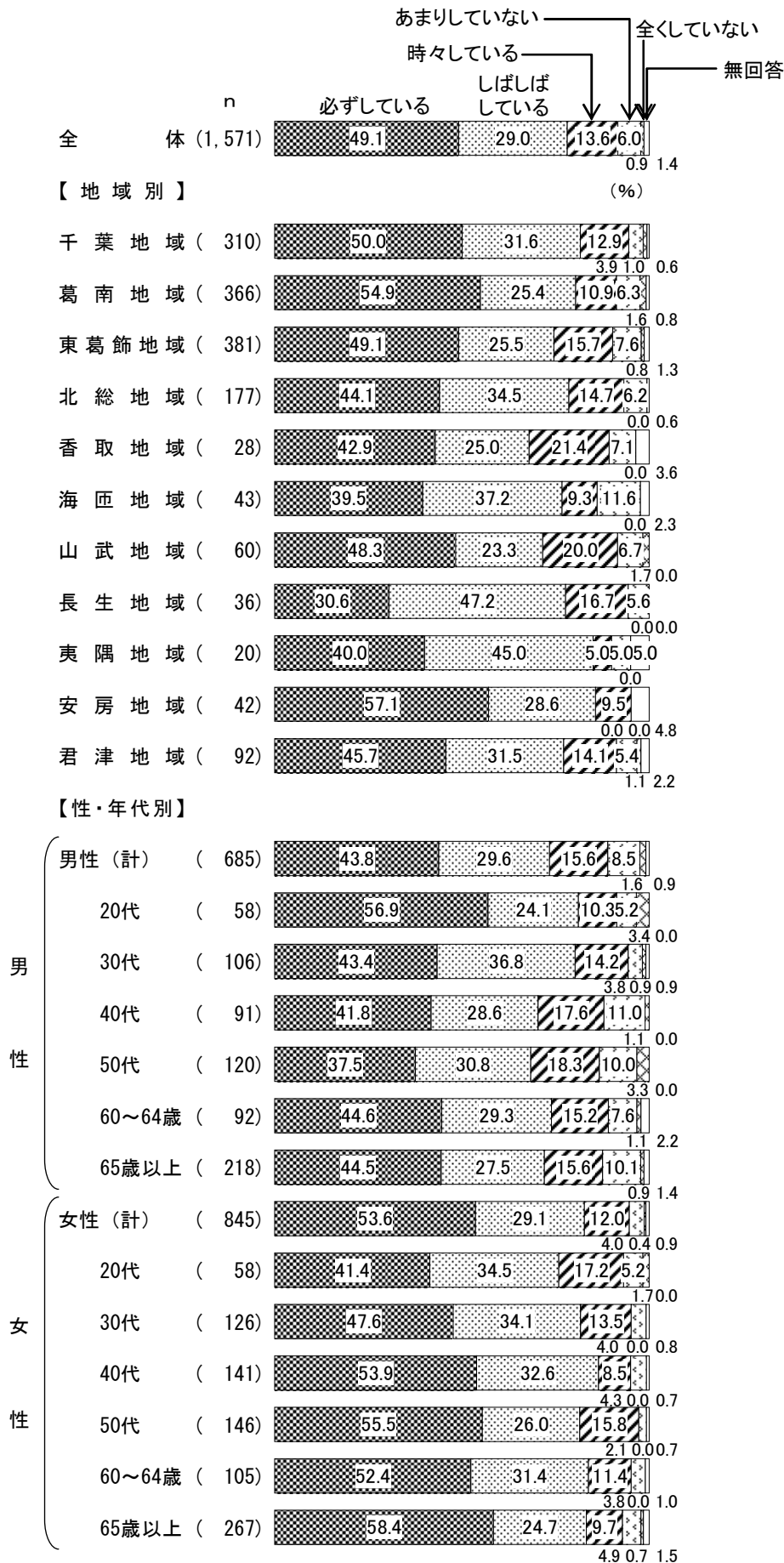


毎日朝食を摂る規則正しい食生活に
努めている。

自らも料理に取り組んでいる。



食べ残しを減らす努力をしている。

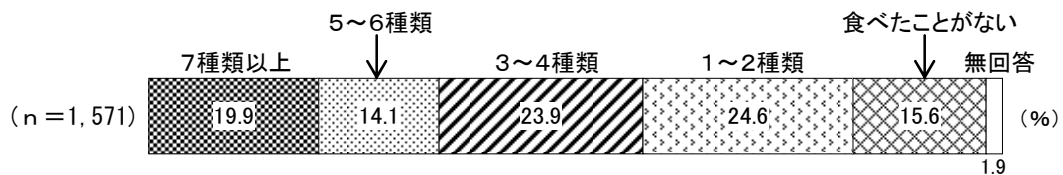


(6) 郷土料理・伝統食・行事食などの認知度

◇「3～4種類」と「1～2種類」が2割台半ば

問37 我が国では、四季折々の様々な食材に恵まれ、長い年月を経て地域と結びついた郷土料理、伝統食や行事食(※)、配膳方法、作法などの食文化が形成されてきました。あなたがお住まいの地域の郷土料理や伝統食について、何種類知っていますか。(○は1つ)

<図表 37-1> 郷土料理・伝統食・行事食などの認知度



郷土料理・伝統食・行事食などの認知度を聞いたところ、「7種類以上」(19.9%)は約2割、「5～6種類」(14.1%)は1割台半ば、「3～4種類」(23.9%)と「1～2種類」(24.6%)は2割台半ば、「食べたことがない」(15.6%)は1割台半ばとなっている。(図表 37-1)

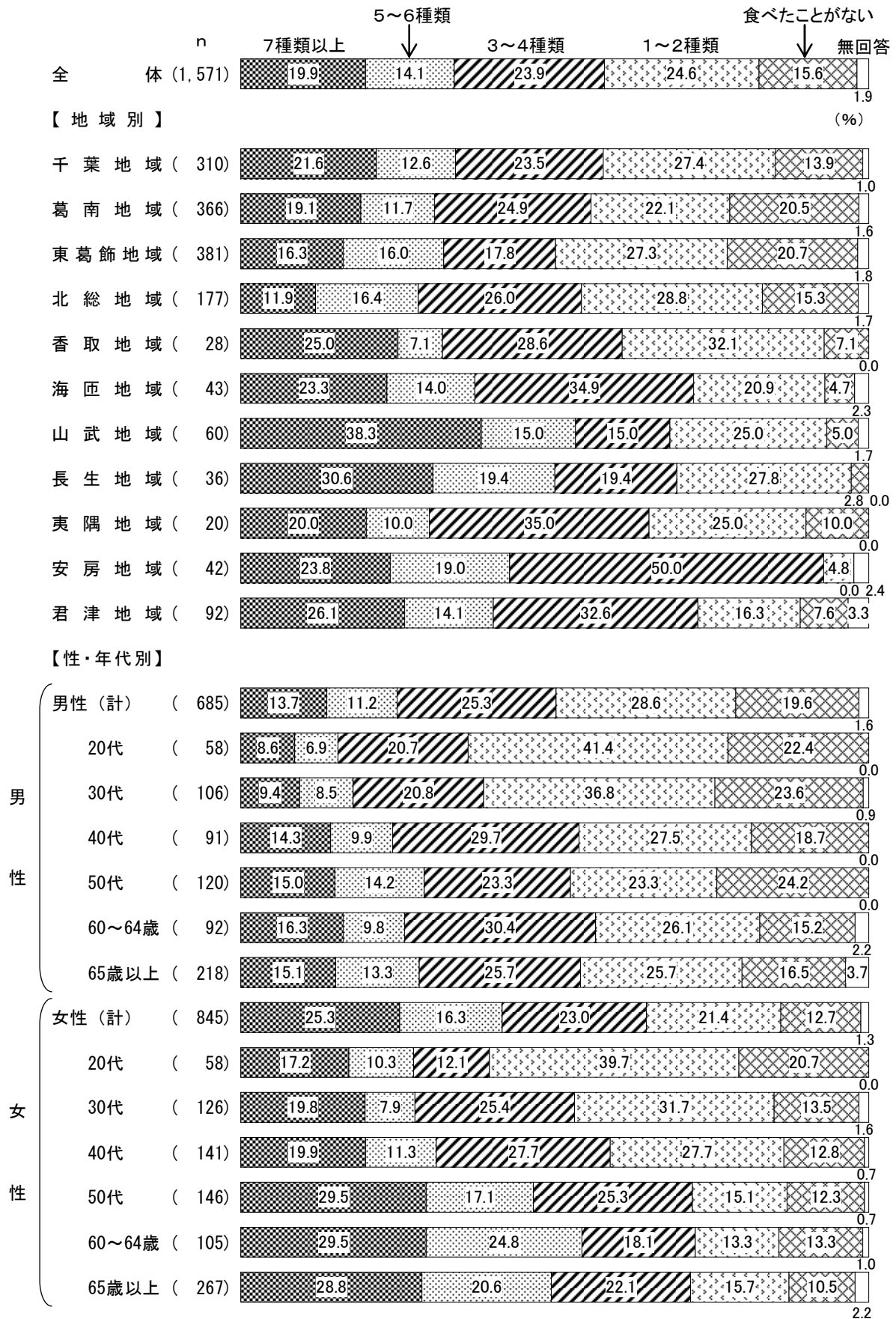
【地域別】

地域別にみると、「7種類以上」は“山武地域”(38.3%)で約4割と他の地域に比べて高くなっている。「食べたことがない」は“葛南地域”(20.5%)と“東葛飾地域”(20.7%)で2割となっている。(図表 37-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「7種類以上」は女性50代以上の年代で約3割と他の年代に比べて高くなっている。(図表 37-2)

<図表 37-2> 郷土料理・伝統食・行事食などの認知度／地域別、性・年代別



(7) 食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向

◇「参加してみたい」が3割を超える

問38 あなたは、食育の推進に関わるボランティア活動に機会があれば参加したいとお考えですか。(○は1つ)

＜図表 38－1＞食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向



食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向を聞いたところ、「参加してみたい」(32.1%)が3割を超えている。一方、「参加してみたいとは思わない」(64.0%)が6割台半ばとなっている。

(図表 38－1)

【地域別】

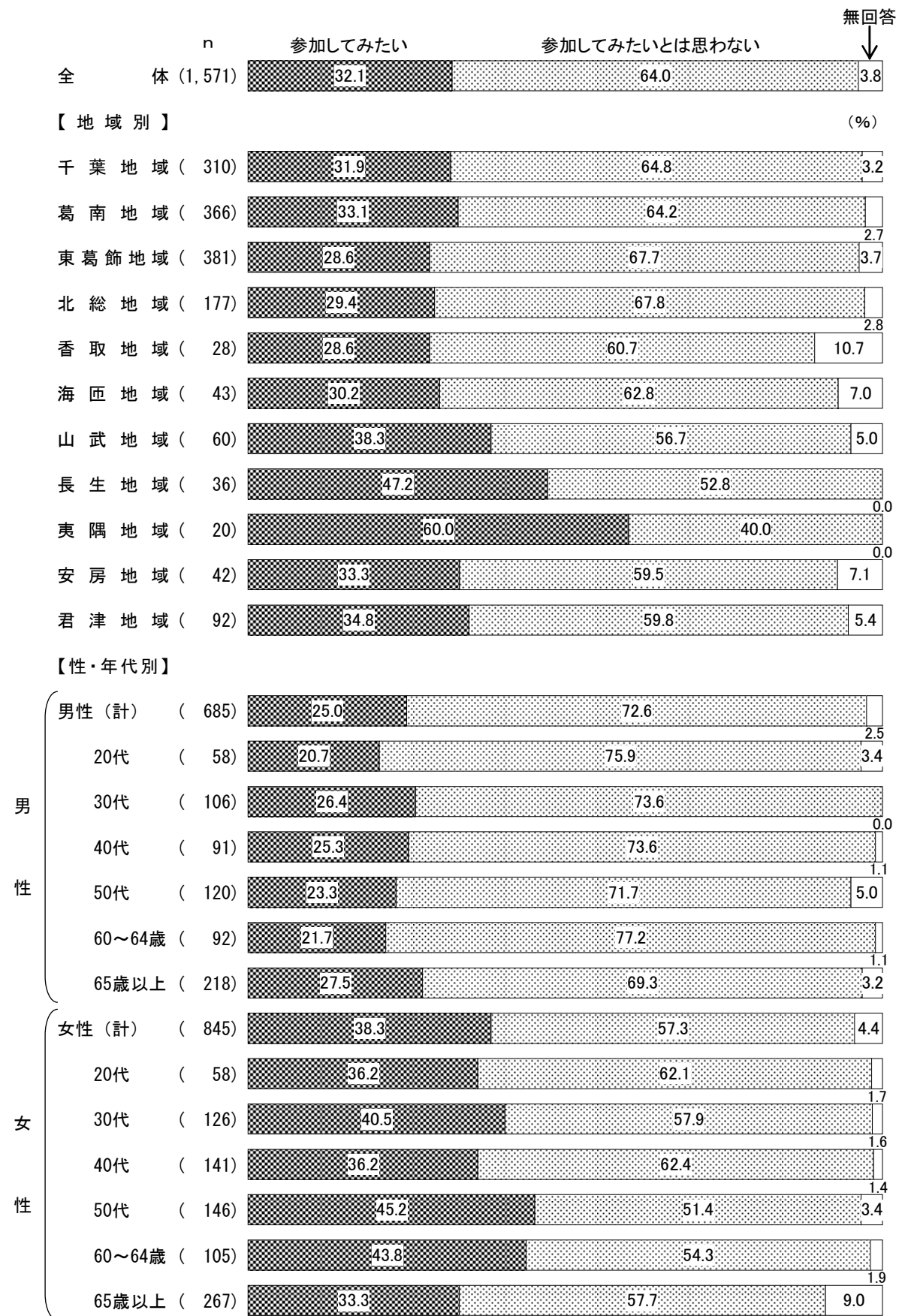
地域別にみると、「参加してみたい」は“夷隅地域”(60.0%)が6割、“長生地域”(47.2%)で約5割と他の地域に比べて高くなっている。(図表 38－2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「参加してみたい」はすべての年代において女性の割合が男性を上回り、女性50代(45.2%)と女性60～64歳(43.8%)が4割台半ばで他の年代に比べて高くなっている。

(図表 38－2)

<図表 38-2>食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向／地域別、性・年代別



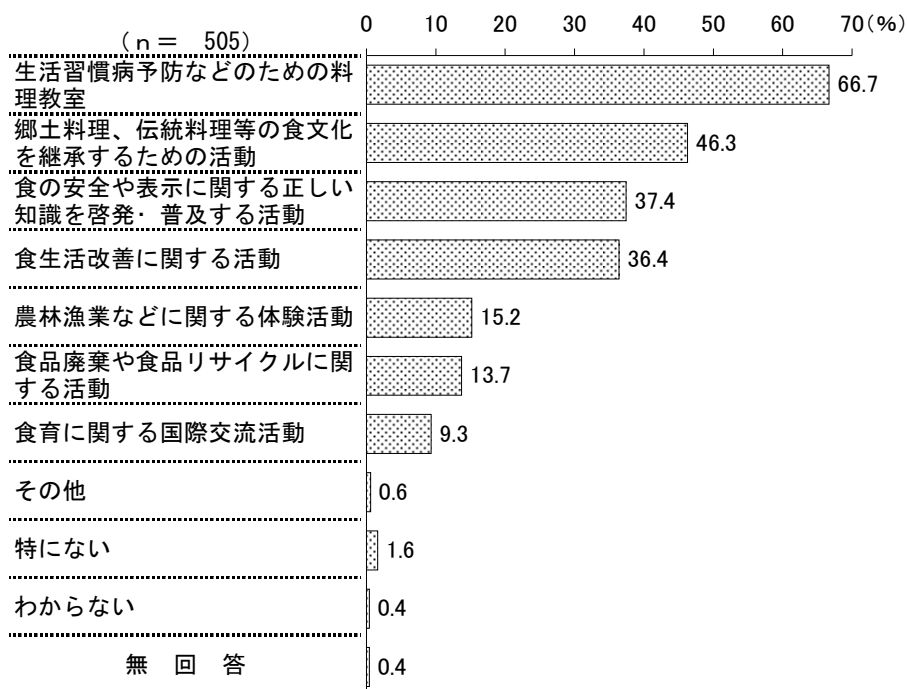
(7-1) 参加してみたいボランティア活動

◇「生活習慣病予防などのための料理教室」が6割台半ば

(問38で「1 参加してみたい」とお答えの方に)

問38-1 あなたは、食育の推進に関わるどのようなボランティア活動に参加してみたいと思いますか。(〇は3つまで)

<図表 38-1-1>参加してみたいボランティア活動



問38で食育の推進に関わるボランティア活動に「参加してみたい」と回答した人(505人)に参加してみたいボランティア活動を聞いたところ、「生活習慣病予防などのための料理教室」(66.7%)が6割台半ばとなっており、以下、「郷土料理、伝統料理等の食文化を継承するための活動」(46.3%)、「食の安全や表示に関する正しい知識を啓発・普及する活動」(37.4%)などが続く。

(図表 38-1-1)

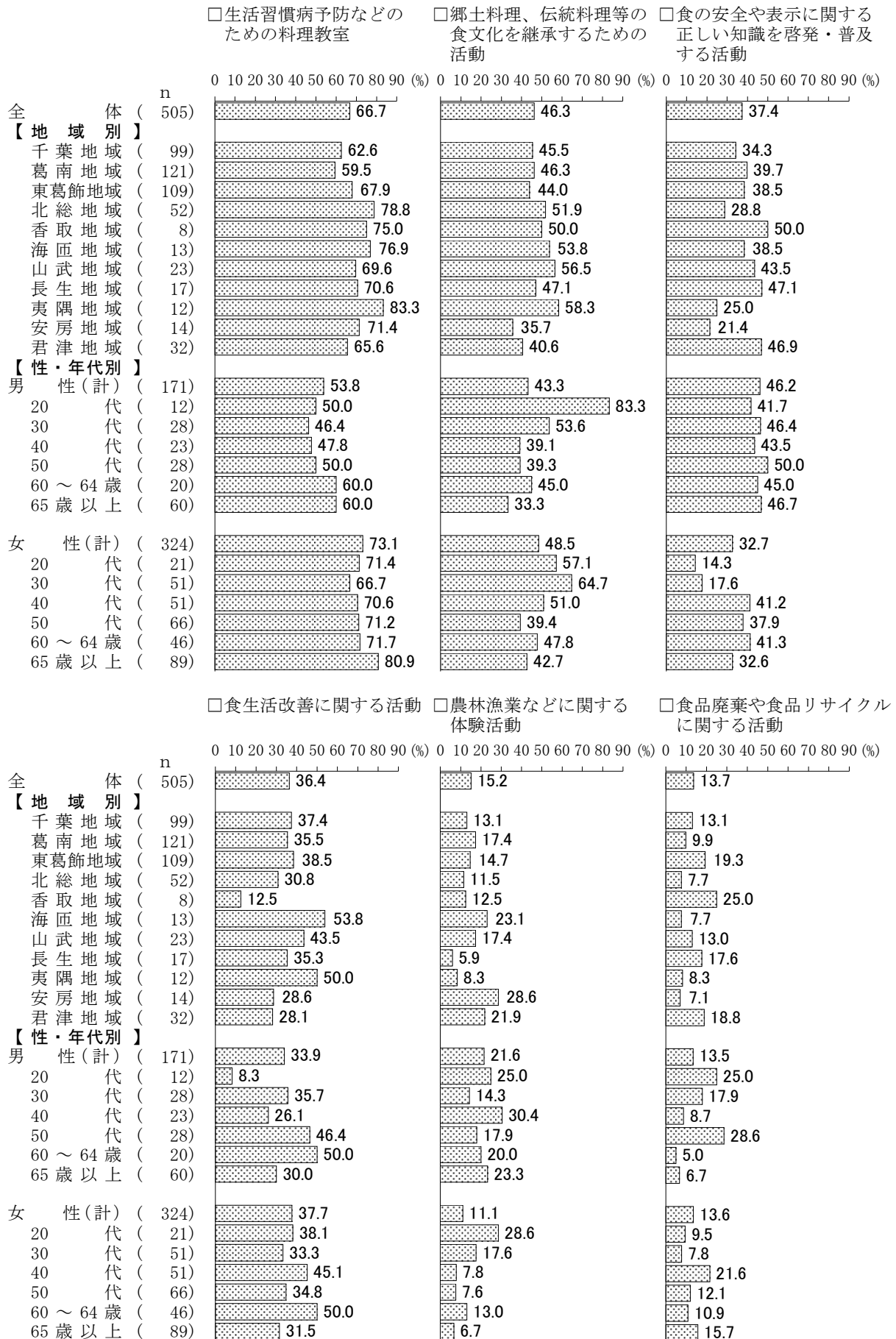
【地域別】

地域別にみると、「生活習慣病予防などのための料理教室」は“葛南地域”(59.5%)が約6割で他の地域に比べてやや低くなっている。(図表 38-1-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「生活習慣病予防などのための料理教室」はすべての年代において女性の割合が男性を上回り、女性65歳以上(80.9%)で8割となっている。(図表 38-1-2)

<図表 38-1-2> 参加してみたいボランティア活動／地域別、性・年代別



このほかに、「食育について」やここまでの質問（問32～問38）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、71人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■ 「食育について」の自由回答(抜粋)

- マスコミの情報に左右されず正しい知識を身につけたい。（スナック菓子のトランス脂肪酸など身体に与える有害性など）野菜の栄養価は昔に比べどの位減少したか、そのためにどのように調理すればいいか補うかなど。（女性・40代・千葉地域）
- 伝統食や行事食の作り方を学ぶ機会がなく今までできてしまいました。（女性・50代・葛南地域）
- 公民館や公共施設の生活実習活動や生活改善発表会に参加する。（男性・65歳以上・葛南地域）
- 「食育」をもっとするのであれば、子供たちにはなく、親たちにもっと推進・指導していくべき。（男性・30代・北総地域）
- 特に有りませんが、持病が有りますので、なるべく身体に良いものを食べている。
（男性・65歳以上・山武地域）
- 食育、私ははっきりと食育の意味がわかりません。なんとなく文字から想像した自分なりの理解でアンケートに答えています。どれだけの人がわかって（きちんと理解）いるのでしょうか？私は食事はとても大切な事だと思っています。生きていく上で子どもの人生も関わると思っています。もっとわかりやすく啓発活動すべきだと思います。（女性・40代・長生地域）
- 「食育」という言葉は、もはや誰でも知っている言葉となりつつある。しかし、実際に振り返ってみて自分の食生活について考える機会はあまりないのでは。「千産千消」の活動においても、そこまで考えさせることができたらよりよいと思う。（女性・20代・長生地域）
- 最近、外食で済ませたり、家族1つ屋根の下に一緒に住んでいながらバラバラで食べる家庭が増えてきているように思います。「食」は生活の中で、身も心も豊かにしてくれるものです。家族が団欒することで得られるものは、とても大きいです。食を通して、人と人とのつながりが強くなっていったら、いいなと思います。（女性・20代・葛南地域）
- これからは男性も食育の推進が必要だと思います。小学高学年・中・高生の男の子にも特に料理教室などの参加をPRしてほしいと思います。（女性・60～64歳・千葉地域）
- 食育は家庭では限界があるので、学校教育でもっと力を入れて取り組んでほしい。最近、栄養教諭ということばを耳にすることがありますが、学校に専門家を置く必要があるのでは？
（女性・50代・千葉地域）